

竜美ヶ丘小児科のかかりつけ医登録されたお子さんとその保護者の方へ
5～11歳の新型コロナワクチン接種について
(令和4年4月1日付：無断転載禁止)

はじめに

子どもの新型コロナウイルス感染症は軽症のことが多いことと、オミクロン株へのワクチンの効果が従来と比べて下がっていることもあって、ワクチンに対する様々な意見が飛び交い、迷われている方もいると思います。

そこで、竜美ヶ丘小児科をかかりつけ医のお子さんや保護者の方へ私の考えをお伝えしたいと思います。基本的には日本小児科学会のステートメントが私の方針です。

今、分かっていることは、

1)中等症や重症のお子さんが増えています

5～11歳の新型コロナウイルス感染症（以下、“コロナ”）の多くは軽症ですが、酸素投与などを必要とする中等症のお子さんや心不全を起こすような重症のお子さんがときどきいます。オミクロン株は、中等症や重症化する率は下がっていますが、感染する子どもが増えたため、結果的に仮性クループや肺炎、けいれん、嘔吐や脱水などの中等症や重症のお子さんの数が増えています。

2)発熱するお子さんの割合が増えて、熱性けいれんが増えています

オミクロン株はこれまでのコロナと比べて感染するお子さんが多く、発熱する割合が高いため、熱性けいれんが増えています。

3)2歳未満と基礎疾患のある子どもは、重症化する危険が高い

0～1歳と表に書かれているような病気をもつおさんは重症化する危険が高いため、2歳未満のおさんがコロナにかかった場合は注意が必要で、基礎疾患のあるおさんはワクチンを接種してください。

4)園や学校に行けない期間が長くなり、さまざまな影響が出ています

オミクロン株の流行で子どもの感染者、特に9才以下の子どもが増えたため、学校や幼稚園・保育所でもクラスターなどが起きるようになりました。

5)ワクチンの効果は下がっていますが、効果はあり、重症化の予防効果は高い

5～11歳のワクチンは、現時点でファイザー社製のみで、12才以上のワクチンと違います。これまでは、発症予防効果は90%以上、重症化の予防効果も報告されていましたが、オミクロン株では、感染予防効果は31%、発症予防効果は51%と下がっていますが、入院予防効果は74%です。

6)副反応は、これまでの報告より少なく、多くは軽症

- 米国での5～11歳の子どもの接種後の健康状況調査で、2回接種後の局所反応が57.5%、全身反応が40.9%に認められ、発熱は1回目接種後7.9%、2回目接種後13.4%に認められました。
- 米国の予防接種安全性監視システムに、副反応の97.6%（4,149件）が非重篤、重篤と報告された100件(2.4%)の中で最も多いのが発熱（29件）、11件が心筋炎ですが、全員、回復しています。
- 心筋炎を含めた接種後の副反応の出現頻度は、5～11歳は、16～25歳と比べると低くなっています。

以上のことから、子どものワクチン接種は、接種しておいた方が良いワクチンです

1)子どもを守るためにも、まずは、周囲の大人のワクチン接種は必須条件です。

2) 基礎疾患のある場合は、主治医の先生と事前に相談しておいてください。

3) 12歳以上と同じで、接種しておいた方が良いワクチンです。本人と保護者が十分理解し、それでも迷ったら、受付に電話をしてください。

* 令和4年4月1日 竜美ヶ丘小児科 院長 鈴木研史

参考資料

5～11歳小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方: 日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

☆疑問があったらここもご覧ください！

厚生労働省：5～11歳の子どもの接種（小児接種）についてのお知らせ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_for_children.html